

チャレンジクラス「あたごSpace」の支援と取組(多摩市立東愛宕中学校)

令和7年4月10日
教育課程企画特別部会
資料 1 - 4



不登校生徒の実態・状況

学びたい生徒がいる！！



チャレンジクラス「あたごSpace」の支援のキーワード



整える

＼登校日数の増加

ゆとりある生活時程の中で「リフレッシュタイム」などを取り入れ、生活リズムや心身の状況を整え、在籍前の年度より登校日数を増やしていきます。

分かる

＼学習内容の定着

一人一人の学習状況に合わせた個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努め、学習内容を確実に身に付けることができます。

つながる

＼学校・相談機関とのつながりの構築

個別支援計画を活用し、関係機関と連携を図り「学校内外の機関等による相談・指導等を受けていない生徒数」を0にしていけます。

チャレンジクラス「あたごSpace」の支援と取組(多摩市立東愛宕中学校)

支援のキーワード①

整える

(登校日数の増加)

■生徒の実態(17人)

・起立性調節障害 6人(35.2%) ・集団が苦手 6人(35.2%)

【個々の特性】

・コミュニケーションが難しい ・感覚(聴覚・嗅覚)過敏
・情緒面の不安定 等

①「リフレッシュタイム」の設定

朝学活後から1時間目授業開始までの15分程度、自分のペースでリフレッシュできる空間でのんびりできる時間を確保している。

② 休息時間の活用

授業中も体調や気持ちが整わない時には、休憩や対応が個別にできるスペースへ移動し、活動の参加を目標に身体や気持ちを整えていく。



▲多目的教室でのリフレッシュタイム



▲2年生の教室に休息スペースを設置



【成果】 出席率の向上を維持

○ 安心して登校できる環境により、自主的に登校できる生徒が増えた。

・ R5年度出席率28.7%⇒R6年度出席率**65%**以上を維持

・ R6年度出席改善率(10月現在)⇒**約80%**

○ 仲間とのコミュニケーションが増え、充実した学校生活に向けて、前向きな登校が継続できている。

チャレンジクラス「あたごSpace」の支援と取組(多摩市立東愛宕中学校)

支援のキーワード②

分かる

(学習内容の定着)

■生徒の実態(17人)

- ・これまでの不登校による授業欠席が要因で学び直しが必要な生徒
17人中14人(82.3%)

① 教科や学習内容・個の習熟に応じた学習展開

- ア 全学年……音楽、保健体育、道徳 等
- イ 各学年別……5教科、美術、技術・家庭、学活・総合等
- ウ 少人数展開……数学の一部

② 各教科において「振り返り」を含めた学習の時間を設定

③ 体験的な授業の充実

- ・理科(理科室での実験、校地内の植物の観察)
- ・家庭科(調理室・被服室の利用や保育実習等)
- ・総合的な学習の時間(養蜂を通じた「みつばち」の生態観察、採取した「はちみつ」の瓶詰め・販売体験)
- ・全校行事(「合唱コンクール」参加に向けた目標設定と応援メッセージの作成)



▲道徳科の授業(1～3年合同)



▲理科「電気を通す実験」(3年)



▲「はちみつ」の瓶詰め体験



▲自分の目標と応援メッセージの作成



【成果】 これまでの学習の学び直しから、前向きに学習に取り組むことができる。

<生徒の声より>

「道徳で、自分の意見が言えたり書けるようになったりした」 「調理実習の卵料理を家でもやってみたよ」
「自分のペースに合わせて学習に取り組むことができてよかった」

【生徒A】「自分のペースに合わせて学習に取り組むことができた」

○個別の支援計画(東京都・個別様式)

生徒Aの願い	学力向上、学力の不足分を補う。生活リズムを安定する。
今年度の目標	毎日の学校生活を通して、教科の学習や仲間の関わりを積み重ねていく。
指導の目標(国語)	語彙を豊かにし、言葉で的確に文章を捉えたり、他者に自身の思いを伝えたりする態度を養う。

○(国語)学習指導と評価の実際

	個に応じた 学習内容	評価の観点	通知表(認め、励ます評価)
国語	読むこと (説明的文章)	知識・技能	意見と根拠の関係を理解できました。
		思考・判断・表現	筆者の主張に対して、自分の考えをもつことができました。
		主体的に学習に取り組む態度	粘り強く文章を読み、自分が考えたことを友達に説明しようとしていました。

個に応じた学習指導や評価を通知表に反映して生徒を認め、励まして、通常の教育課程の評価規準に照らすと指導要録における学習評価は付けられないor低くなる。

「指導と評価の実態」と「指導要録」とのずれが生じる。



生徒の学習意欲に応え、指導と評価の一体化を図るために

○特別な教育課程の編成・実施 ○個に応じた学習評価の検討

チャレンジクラス「あたごSpace」の支援と取組(多摩市立東愛宕中学校)

支援のキーワード③

つながる

(不登校生徒を関係機関や教職員とつなげる取組)

■生徒の実態(17人)

- ・体調不良・生活リズム不規則による
- ・朝の登校が安定しない生徒が多い 17人中10人(58.8%)
- ・家庭との連携が不可欠

① 時間割ノートの記入

- ・具体的な活動予定を記入し、これからの見通しもつ。

② 直通電話回線の構築

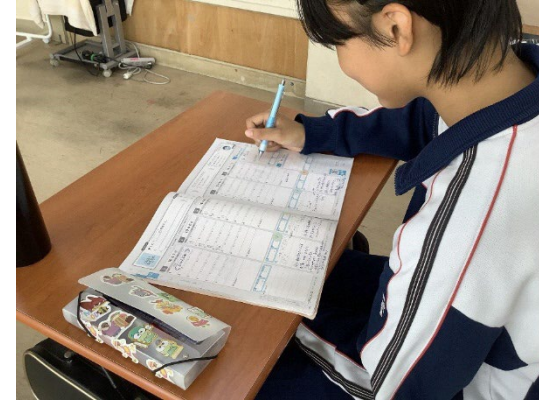
- ・生徒も保護者も安心して連絡ができる。

③ 「無連絡家庭 ゼロ」の目標設定

- ・遅刻でも登校できる目標を一緒に考える。

④ SC、SSWとの連携

- ・生徒・家庭へのサポート体制を構築する。



▲時間割ノートの記入



▲直通電話での生徒との通話



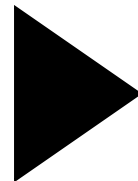
【成果】 気軽に「話せる」関係を構築することができた。

- 生徒、家庭から学校へ連絡を取ることができている。特に、生徒も安心して連絡できる関係を維持している。
- 学校から欠席生徒、家庭への連絡を取り、体調や生活リズムの確認、翌日の時間割について伝え、見通しをもつことができるようになっている。
- 教員とSC・SSWの定期的情報連携を通して、生徒や家庭が学校や関係機関等とつながることができる。

チャレンジクラス「あたごSpace」の支援と取組(多摩市立東愛宕中学校)



学びたい生徒



学び続ける生徒へ